

# 防災緑地ワークショップ～これからの合意形成～



事業箇所:いわき市沿岸部7地区のうちワークショップ実施6地区

## 1. 概要

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震および津波により、いわき市沿岸部は大きな被害を受けました。このため、いわき市では「津波防災まちづくり」として、7地区で防災緑地を整備することとなりました。

### <防災緑地とは>

防災緑地は、海岸堤防の背後に幅約50mを盛土し、樹木を植栽することにより、津波の勢いを弱め、被害を軽減し、避難時間を確保する「防災機能」、あわせて「地域振興機能」「地域再生機能」を担う防災施設であり、都市計画緑地として整備します。

## 2. ワークショップのねらい

- 各地域の特色を活かした緑地となるよう、地域の課題、関心、ニーズを掘り起こし、防災緑地づくりに反映する。
- 地域住民と学識経験者、行政が防災緑地の必要性、意義、役割を共有し、協働・協力して、防災緑地を守り育てる関係を構築する。

## 3. ワークショップの進行

- 現地に単管パイプによる防災緑地の実寸大模型を設置し、地域の方々に規模を実感してもらいました。
- 上空や海上から事業地を観察し、地域の将来像を様々な角度から理解してもらいました。
- 学識経験者にも参画してもらい、専門家の見地からアドバイスをいただくことで、より深い議論となりました。



実寸大模型



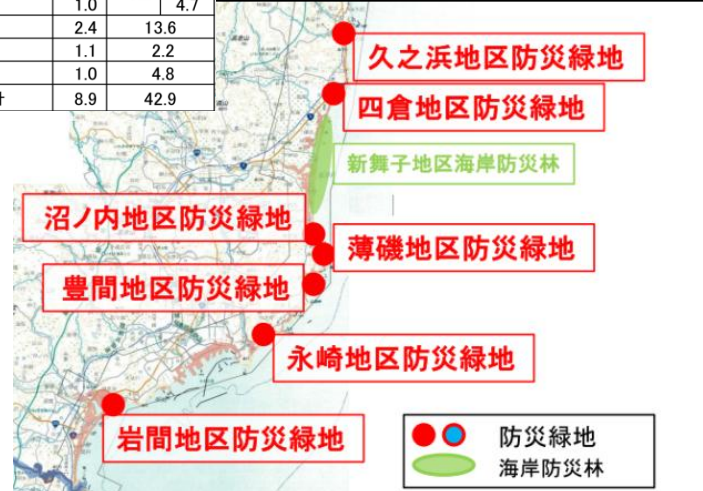
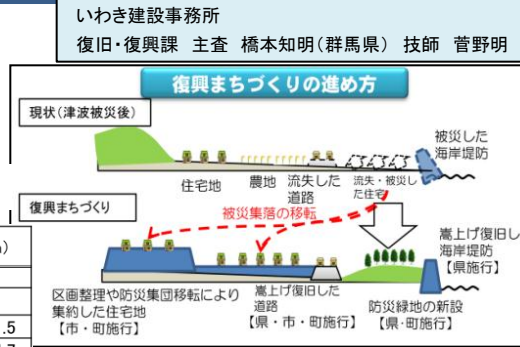
海上視察



上空視察

### 事業概要

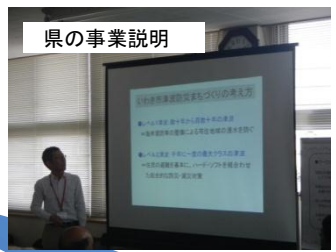
地区名	延長 (km)	面積 (ha)
久之浜地区	1.3	11.2
四倉地区	1.5	4.9
沼ノ内地区	0.6	6.2
薄磯地区	1.0	1.5
豊間地区	2.4	4.7
永崎地区	1.1	13.6
岩間地区	1.0	2.2
岩間地区	1.0	4.8
小計	8.9	42.9



事業位置図

## 4. ワークショップで得られた成果

- 各地域でワークショップの雰囲気にも特色が見られ、地域にあった計画検討の進め方が明らかとなり、地区ごとの特色が計画に反映されました。
- 回を重ねるごとに参加者の意気込みや熱気が高まり、防災緑地への理解と関心を高めることができました。
- 各地区で様々な会議が同時期に開催され、参加者が同じ意見を何度も求められる状況であったことから、各会議で出た意見を行政間（県・市）で共有する必要があります。
- 広大な防災緑地の維持管理、運営の具体的な内容について、今後も地域の方々と協力して考えていく協力体制ができあがりました。
- 生物多様性考慮の必要性等、専門家の意見も反映されていきます。



## 5. 地域と防災緑地の関わり方

- 防災緑地を守り育てる担い手となる子供たちに関心を持ってもらうため、小中学校で、出前講座の実施や、防災緑地に植える植物を種や苗木から育ててもらう活動をしています。
- 将来、子供たちが育てた苗木を地域と行政と一緒に防災緑地に植樹することで、防災意識の向上や環境学習の場として利用など、地域のシンボルとしてももらいたいと考えています。
- 各地域に根ざした企業やボランティア団体等と防災緑地の運営を協力して行えるような仕組みを考えていきます。



## 6. おわりに

- 防災緑地を守り育てていくには、地元住民が愛着を持ち、地域の財産として利活用する取り組み、体制、制度が必要であり、整備直後だけではなく、数十年後の継続した住民と行政との協働が重要だと考えています。
- ワークショップでの地域住民とのつながりを切らず大切に、その輪を広げ発展させ、地域主体の組織づくりに繋がればと思います。地域の課題や問題を解決するヒントが、地域住民との話し合いの中から見えてくることを実感しました。